

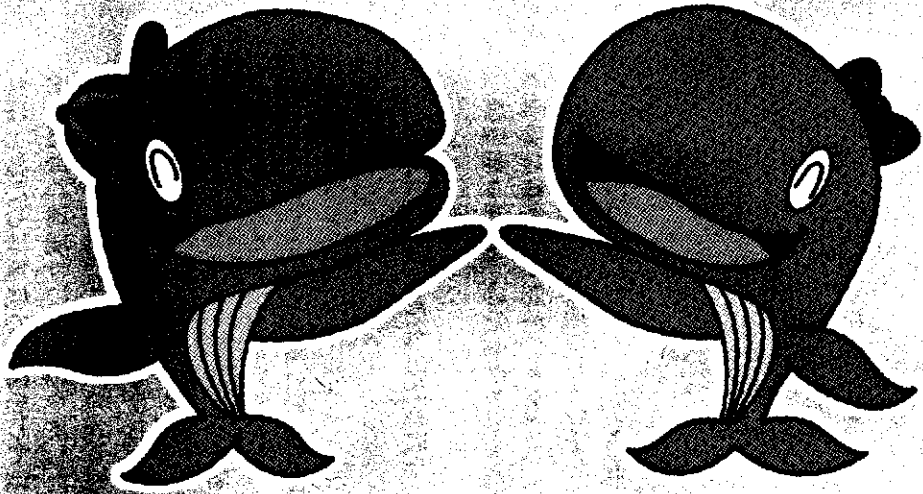
はーい！

男と女が共に歩むための情報誌

Hi,あさしま

vol.43

2017.3



特集

■ 地域のママたちで立ち上げた
こどものサロン「び〜の」(福島町)

上司が変われば職場が変わる
～イクボスのすすめ～
…男女共同参画講演会…

ココロとカラダを自分で守る
…男女共同参画・DV防止セミナー…

BOOK GUIDE

『父親を嫌っていた僕が「笑顔のパパ」になれた理由』
『男という名の絶望』『防災ピクニックが子どもを守る！』

INFORMATION

子どもを地域でのびのび育てたい！ 地域のママたちで立ち上げた こどものサロン「び～の」(福島町)

- ・昭島ふれあいほっとサロン(昭島市社会福祉協議会)登録団体
- ・平成28年6月発足。代表の末永さんほか、3人の同じ地域に住むママたちで運営
- ・木曜日は放課後の居場所として、隔週金曜日はみんなでご飯を食べることを目的に開設
- ・学校の長期休業日や振替休業日にはイベントも開催

今回は、代表の末永さん(3人のお子さんを持つ働くママ)にお話をうかがってみました。

活動を始めたきっかけは
何ですか？

きっかけは、ある日の出来事です。公園で遊んでいた子どもたちの声がうるさいと、通報されると言うことがあったのです。確かに、うるさかったのかもしれませんが、悲しい気持ちになりました。

子どもたちが安心して遊べるようにしたい。かといって、いつもそばで見ているわけにもいけませんよね。それに、私たちは地域で生活をしていきます。私は「地域」にこだわりました。

「子どもは地域で育つ」
だったら、地域の子どものために「何か」できないか。そこで、「子どもたちが安心して出入りできる場所があったら、どんなに楽しいだろう」と思いついて、とりあえず、思い切って自宅の近所に場所を借りました。

なぜ、地域の子どものために？

思い起こせば、自分の生きてきた道の中にあるような気がします。私はよく児童館で過ごしていました。そこには、スタッフさんがいて、自由に過ごさせてくれたり、話を聴いてくれたり、私にとって憩いの場でした。

ある時、家を飛び出した私は、なぜか児童館へ行ったんです。すると、スタッフの方が迎え入れてくれて、なんと児童館に泊めてくれた(笑)。



今思えば、そのスタッフさんも勇気があったというか、ご自宅のこともあったでしょうに、よくそんなこと許してくれたなあ。

その方とは今でも仲良くさせていただいており、大変感謝しています。そんな経験が「び～の」の根底にあると思います。

これまでの歩みを教えてください

子どもの居場所を作ろうと思って、とりあえず場所は用意したわけですが、

が、私にはどうすればよいかまるであらない。

それで、同じ子ども会のママで、放課後子ども教室のコーディネーターをやっている人がいたので声をかけてみました。

そうしたら、もう1人その場にいたのですが、その2人が「企画ならお任せ」と言ってくれた。

そこでメンバーが3人で、サロンとして登録するところから始めました。メンバーそれぞれには役割があって、実働は私とコーディネーターの方、お便りなどの作成はもう1人の方、そのあとから、もう1人加わって、「び～の」を運営しています。

できる人ができることをやるという関係も、とてもいいと思っています。

6月にスタートして、最初は毎週木曜日の放課後、午後2時から5時まで開放しました。1回の参加費は、おやつが付いて100円です。

7月には、福島自治会館を借りて、カレーパーティーをやってみたり、子どもと大人合わせて55人が集まりました。仕事帰りに立ち寄ってくれたお父さん、お母さんもいて、一緒に食事をしたり、花火をしたり大変盛り上がりました。

気が付けば「子ども食堂」だったねとメンバーで話したくらいです。

夏休みは、最初の1週間と最後の1週間、午前10時30分から午後1時まで開室し、勉強道具を持ってきててもよ